2016年8月　第48号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

白子川源流通信

◆白子川源流エリアの“今”と“これから”
◆白子川のアユと外来種問題
■源流探歩⑨ “源流の森”プロジェクト
◆ドングリを育てよう！
◆魚道設置への動き
◆カモのはぐれっ子
□定例活動報告

近隣小学校へ、川の出前授業

大泉南小体育館での授業

川体験

大泉第二小学校2年生の室内授業

——6月13日

メダカ博士の大塚さん(93歳)は、大二小の第1期生で、“ようこそ先輩”そのもの。当時の卒業写真を見せてから堂々の講義。

育てたクロメダカとヒメダカを子どもたちに見せながら「さわってごらん、オスとメスがわかる？」「川に入ったことある？ザリガニやきれいな水にしか棲めないホトケドジョウがいるよ。次は本物を見ようね」と話す。

大泉南小学校4年生の川体験

——6月30日

白子川での現地体験では、川に近づくや、トウキョウダルマガエルのにぎやかな鳴き声にビックリ。それから子どもたちは、川の中をわいわい歩いた。生き物たちはさぞかし驚いたことだろう。帰りには、学校の「水車池」にいるコイの隠れ家を作るために、水草を1本ずつ持ち帰った。

大泉南小学校4年生の室内授業

——7月6日

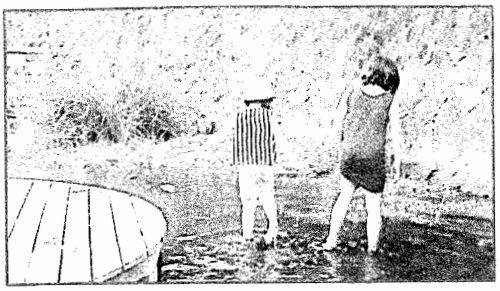
川に入った体験を生かして授業を進める。今はきれいだけれど、昔はドブ川。湧き水の見える今の姿になったのは人々の努力があったから。そんな歴史を見てきたのが、ほとりにある2本の大きなマルバヤナギ。「今度、この木とお話ししてみて下さい」。

小学生の素直なひとみに見つめられ、私はちょっと緊張したが、子どもたちに、よみがえった白子川に棲む本物の“いのち”たちとふれあってほしいと願い、授業を終えた。

リレー表紙 3 （文・片野令子／写真・菅沢 博）

定例活動報告

4月　5月　6月　7月



7月定例時。源流池に水がもどり、早速子どもが水遊び。

＊源流域・水の測定データ

	項目＼日	4/24	5/21	6/26	7/24
測定地点	天気	☁	☀	☀	☁
	気温℃	19	31.5	34	29
源流部	水温℃	21.9	25.8	22	19
	水深cm	2	5	4	6
	pH	6.7	7.2	6.9	7.1
井頭橋	水温℃	18.6	21.4	22	20
	水深cm	15	12	20	20
	pH	6.9	7.3	6.9	7.1

※このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。pHは水素イオン指数で、pH7が中性、これより大きいとアルカリ性、小さいと酸性を示している

源流池の“かいぼり”終了

昨年 12 月から実施していた“かいぼり”を 7 月で終了。春から梅雨が明けるまで雨が多く、源流池はあちこちに水たまりがある状態だった。さて今後、井頭堰を復旧して水をためた状態にもどしたが、アオミドロの繁殖がどの程度抑えられるのか、不安と期待を持って検証していくことに。

（東谷貞子）

定例活動に参加している会員に聞いてみました！

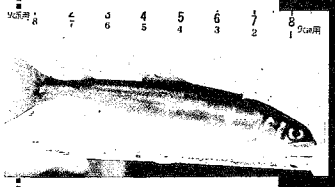
汗だく、ドロドロになる川活動ですが、どんな気持ちでやっていますか？

- 川に入ってやることが、スムーズな生活のリズムになって楽しい。
- 記録として残しておくと何かの役に立つとの思いで、これだけは行けるときは行くつもり。
- 童心にかえる貴重な時間に感謝。川の生物、植物、魅力あふれる川を愛するヒトとの出会いが楽しくて幸せ。
- １年を通じて、生き物の変化を感じられ、楽しめる。ゴミが無くなると見た目も良く、気持ちも良い。
- 川にふれると気持ちが安らぐ。
- 水がとても気持ち良く、すがすがしい気分になれる。
- 川に入る度に新しい発見があります。作業の後の一杯が最高です。
- 川の植物の変化を見て、自然を感じることが良い。水がきれいになり、魚が増えることがうれしい。
- 参加している人たちとの交流。幼い子供からお歳を召した方まで、様々な方たちとの会話が楽しい。また、様々な生物に季節を感じながら過ごせる楽しみの場である。

活動記録

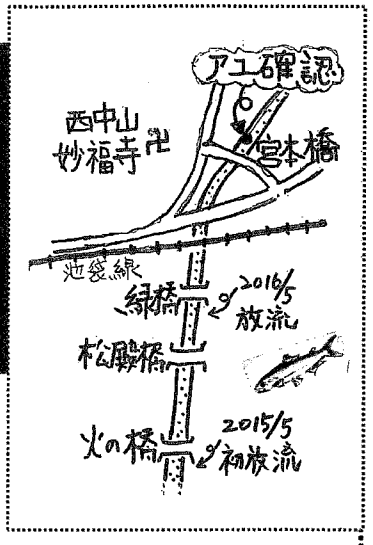
5/ 1　南田中図書館講座（「ねりまの川」）出席
8　アユのテスト放流（緑橋で 1.5 kg）
15　「めいゆうこどもまつり」に出展
21　身近な川の全国一斉調査リハーサル参加
22　定例活動
6/ 5　身近な川の全国一斉調査実施
7　大泉南小４年生の白子川体験①
11　白子川の魚と魚道の会合参加
13　大泉二小２年生の白子川授業
19　第 16 回定期総会
26　定例活動
29　大泉二小２年生の白子川見学
6/30　大泉南小４年生の白子川体験②
7/ 6　大泉南小４年生の白子川授業
11～18　環境団体展示（主催・勤労福祉会館）
15　“源流の森”プロジェクト勉強会
23　源流まつり企画会議
24　定例活動（半年のかいぼり終了）
8/ 7　源流まつり実行委員会①
10　東京都へ公園計画打診
27　ハーフコーン型魚道見学会参加
27　会報 第 48 号発行
28　定例活動

※毎月、定例活動前日に運営会議



白子川のアユの近況と忍び寄る外来種問題

井口卓磨



白子川では5月に上流「練馬区」と下流「和光市」にアユを放流しました。そのアユ達はどうなったのでしょう。前半はそのことについての嬉しい報告をします。

僕と菅沢さんは7月に、去年の放流後アユが最後まで生きていた宮本橋（西武線の少し下の橋）に行きました。そこには水深がかなり深い所（淵）があり、去年もここにアユが溜まっていました。今回もその深みにいるのではと投網で探ってみると… やはりいました。アユは1回の投網で8匹も入りました。アユは12センチを超えるもの、少し小さい10センチ程度のものがいました。どのアユも可愛らしく、これからの成長が期待できそうです。

アユ達は観察が終わったら元の場所に放しました。上流のアユはまだどのあたりにいるのか完全にわかったわけではありません。地域の皆さんもぜひ川をそおっと覗いてみてください、もしかしたら元気なアユが泳いでいるのを見られるかもしれません。

投網の師匠は黒目川の佐藤さん

そして次は白子川の外来種問題についてです。外来種というと皆さんはブラックバスやブルーギル、アメリカザリガニを思い浮かべるかもしれません。これらの生き物は全て日本国外から来た外来種です。僕がここで扱うのは日本国内の外来種です。国内の外来種というと「何だそれは」となる人が多いでしょう。白子川には最近大量のカワムツという魚が見られるようになりました。カワムツという魚はオイカワやウグイなどとまとめられて「ハヤ」などとも呼ばれている魚です。カワムツはもともと関西にいた魚で、当然、昔の白子川にいた魚ではありません。このような魚はたとえ同じ日本の魚であろうとも外来種となってしまうのです。もともといなかった関西の魚が白子川にいる、これは問題です。そしてこのような問題は国内外来種問題などと言われています。

白子川に魚が少ないから放流しようと思う人はいるかもしれません。確かに白子川には魚はあまり多くはありませんが、もし放流により白子川の生態系が壊れればアユ達がいなくなってしまうかもしれないのです。国内だろうと国外だろうと外来種はその川にとって危険な生き物です。「放流」という単語は一見自然のためのように聞こえますが、慎重に行わないと自然のためどころか、逆に自然を壊してしまうのです。

最後に、アユが生きて育っていたことは大変嬉しいことでした。それと同時にカワムツの影響が大変心配です。こらからも白子川をしっかりと守っていきたいとより一層思いました。

（白子川源流・水辺の会所属、立教新座高校2年）

白子川源流エリアの“今”と“これから”

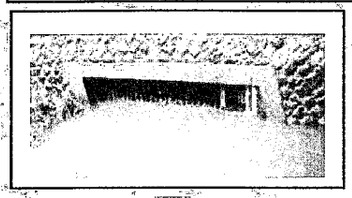
湧き水がこんこんと流れ
子どもたちの川遊びの声が
いつも響く、そんな水辺にしたい。

保谷街道

保谷駅

浸水対策としての貯留管

豪雨時に親水公園に下水が流れ込む。



白子川

南大泉四丁目

東大泉七丁目

南大泉三丁目

調節池

西東京市の“吐けない水”を川に流す前に一度ためる調節池（比丘尼上流調節池より小さめ）の計画。具体化はしていないようだ。

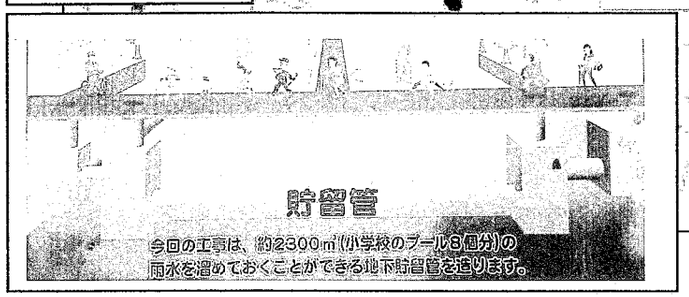
大泉井頭公園の優先整備計画

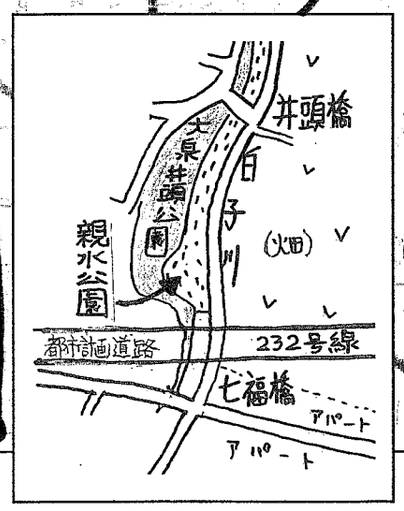
源流の湧水保全を左右する広大な雨水浸透エリア。計画決定は昭和 63 年だが土地取得のメドが立たないため、どんな公園にするかの整備方針は白紙のようだ。練馬区の事業。

都市計画道路 232 号線

幅 16m、昭和 41 年計画決定。水際を貫通し大二小校庭を削り西東京市へ。大泉井頭公園内の親水公園で遊ぶ子供たちや生き物への深刻な影響が懸念される。

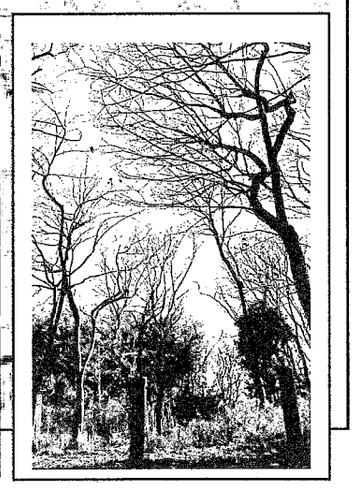
下水道局は、南大泉地区の浸水対策として雨水を一時的にためる貯留管を整備中。直径 1.65 m2 本、2.3km、小学校プール 8 ケ分。稼働しても源流の親水公園への汚水流入量が減ることにはならないようだ。





広大なみどりゾーン
湧水の涵養林としても貴重

みどり広場、こぶし広場、井頭こぶし憩いの森、井頭の森緑地、井頭憩いの森



地域のみなさま

白子川は湧き水の川です。まわりに降った雨を、大地がたっぷりと吸いこんでくれるので湧き続けています。

畑や林や森、家々の庭、はらっぱ、街角の空き地などの『 土 』の保水力のおかげです。

この地域の“今”を保ちながら、さらに緑豊かな“これから”とするために、地域のみなさまに、源流域の現状、いま進行中の工事やこれからの計画の一端をお知らせします。

菅沢 博

源流探歩 ⑨

岡崎一成

“源流の森”プロジェクト

白子川源流・水辺の会／白子川源流の森研究会

昭和初期、白子川の源流には水源を守るための涵養の森がありました。白子川源流の湧水量は、昔に比べたいへん少なくなっています。

■白子川源流の湧水を守るために地下水を涵養する森をつくりたい

■カブトムシやクワガタがいる、夏がすぎればヒグラシが鳴き、秋になればマツムシやクツワムシなどの秋の虫が鳴く、生き物の豊かな森を再生したい

■木漏れ日、涼やかな風、森のにおいなど、子どもの頃感じた心安らぐ、大泉の風土を感じられる森を取り戻したい

■添え物の緑ではない、本物の緑を次世代に残したい

そんなみんなの思いが、今、“源流の森”プロジェクトとして鼓動し始めました。白子川源流部には、豪雨対策河川改修工事・調節池建設工事、232号線計画道路建設工事、防災公園建設工事が予定されています。行政と協働を図り、本物の森・本物の水辺とインフラ整備が調和した豊かな白子川源流を目指したいと考えています。

“源流の森”プロジェクトの第一歩としてドングリを育ててみませんか！

ドングリを育てよう！

ハ本賢二

[まず、新鮮なドングリを拾いましょう]

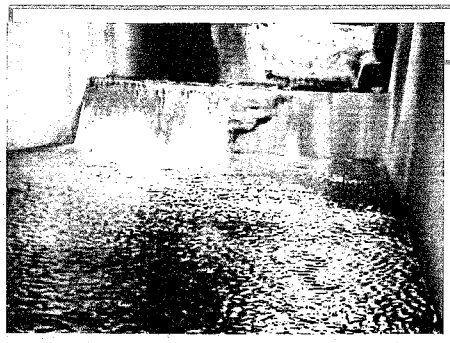
大泉や白子川源流部周辺にはドングリのなる木がわずかに残っています。9月頃から落ち始めますのでドングリを探してみましょう。

[拾ってきたドングリを1日程度水に浸けます]

1日程度水に浸けるのは、ドングリの中の虫を窒息死させるためと発根を促進させるためです。水の浸けすぎはドングリが腐ってしまいます。その時に浮いてしまったり沈み切らないドングリは芽が出る確率が低いので、取り除きます。

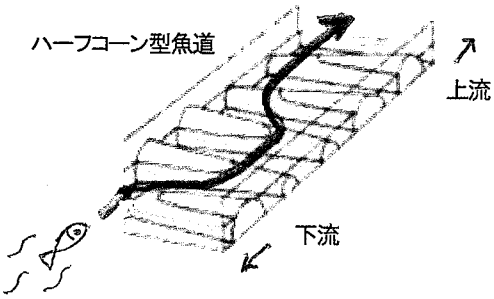
[植木鉢などに植えます]

1～2cm の深さで土はわずかにかぶせる程度で大丈夫です。乾燥にはとても弱いので、週1回程度は水をあげてください。冬の間に根が伸びて、芽は春になるまで出てきません。



遡上を阻む東埼橋の段差

魚道設置への動き



白子川は全 10 kmのうち、河口から2.3kmの東埼橋の下まではアユ等が来ているのに、大きな落差工(段差)によって登りたくても登れません。白子川全体を豊かにするためには魚道が必要です。

いよいよ、下流域の「白子川と流域の水環境を良くする会」が中心となって東埼橋の魚道設置へ向けて動き出しました。

「良くする会」では 4/14 に魚道セミナーを開き、同会の鈴木会長がハーフコーン型の魚道図案を作成し、8/27 には秋川の魚道見学会、9/8 には白子川コミュニティセンターにて埼玉県土整備事務所との協議の場が設定されました。

当会としても、この動きに積極的に乗っていきたいと思います。　　(菅沢 博)

カモのはぐれっ子　【川を愛する人の白子川日記から】

白子川のカルガモのベビーラッシュは 5 月の連休あたり。それをとうに過ぎた 7 月の初めのこと。源流を3羽のヒナを連れたカルガモの親子が何とも可愛い姿を見せて泳いでいた。川沿いを歩く人々は、「このカモさん、なんとも晩婚の母さんだねぇ～(笑)。この時期にまたヒナを見られるなんて、得した気分だ」と喜んだ。そして、「それにしても3羽は少ないね。きっと兄弟たちは、カラスかヘビにやられたのかなぁ」と勝手に想像し、この子たちが無事に大きくなれるよう祈った。

それからしばらく、7月10日ごろのことだった。川の床屋さんの橋近くで、子カモ 3 羽を連れた母さんの側に、なぜかまだ生まれたばかりのような赤ちゃんカモが 1 羽いるではないか。観察をしていた人によると、事もあろうか、この赤ちゃんカモを母さんカモが突っついたり追い払ったりして、いじめていたというのだ。

あゝ…自然界の厳しさよ！　はぐれっ子の赤ちゃんカモはたった 1 羽では生きてはいけない。誰もがこの赤ちゃんカモの運命を心配した。

さて、それから 10 日ほどたったある日…。川沿いを歩く人の目に、チビちゃんカモを連れたカモの親子が仲良く泳いでいる姿が映った。3 羽の子ガモは母さんの半分ほどに。赤ちゃんカモはそのまた半分の大きさ。背中の黄色い点々をピクピク動かし、親子の側で前になり後ろになり、せわしなく水草をついばんでいた。

ある人は言う。この母さんカモもえらいが、本当は、この親子に必死について行った赤ちゃんカモがすごいんだと。ほんに、ほんに…。

(東谷貞子)

7月27日、火の橋下を母さんカモについて行く子カモ 4 羽。

白子川の生き物 47 / 横山 松栄

オオイトトンボ

クロイトトンボ属。体長は、約36mm。「オオイト」と言ってもそんなに大きくはない。雄は空色と黒色の身体をしている。メスは草色か空色の胴の色を持つ。北海道から鹿児島にかけて、平地から低山地の池沼、浅い止水や暖流に発生し、山間の水田にも多い。日本固有種。

白子川の源流付近のウキヤガラやミズヒマワリの群生間にも見られる。（世界文化社生物大図鑑およびウイキペディアから）

みんなの白子川

これからの活動予定

9/10(土) 源流まつり実行委員会
25(日) 定例活動
10/ 9(日) 源流まつりオールスタッフ会議
15(土) 源流まつり準備
16(日) 第16回白子川源流まつり
23(日) 定例活動
11/27(日) 定例活動
12/27(日) 定例活動(かいぼり開始予定)

※運営会議は定例活動の前日です

第16回 白子川源流まつり

10月16日(日)
12:00～15:30

川がすきになるよ～

きてね！

会場：大泉井頭(いがしら)公園

雨天：大泉南小学校（体育館）

定例活動 毎月第4日曜 午後1：30～

どなたでも 川にはいれます！

編集後記

▼東京都の下水道局の、浮間と芝浦の二つの事務所を訪ねた。職員さんのお話を聞く中で改めて、下水道の近代の光と影をまざまざと見せつけられた。“きたないものは川に流せ”この思想から、少なくとも行政は解放されなければいけないのではないかと思う。(あ)

▼高校生5人が学校の課題で、ボランティア参加。初めて川に入った方もいて、――緊張したが案外楽しかった。普段できない活動が新鮮でうれしかった。いつもこうして地域の人たちが協力して自然を守っているだなぁと感動した…と。その感想、素直で清々しい！(さ)

▼源流の木道でのこと。遊んでいた女の子が、川の会員からザリガニの持ち方を教えられると、「人間も好きですか」と驚きの問いが返ってきた。物言わぬ生き物に対する優しさは、物言う人だったらどうなんだと、聞かれたような気がした。(け)

発行　白子川源流・水辺の会
編集　東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字　宮本沙海
発行部数　1,300部

代表　菅沢 博　03-3923-8430
練馬区南大泉1-10-5
suga-lohas@jcom.home.ne.jp
http://www.geocities.jp/sirako_river/

※この会報は年3回発行しています